

社会福祉法人狛江市社会福祉協議会  
平成 28 年度第 4 回地域福祉活動計画策定委員会会議録

1 日時

平成 29 年 3 月 6 日（月） 14：00～15：45

2 場所

あいとぴあセンター 地域福祉推進室

3 出席者（敬称略、名簿順）

委員：小野敏明、市川衛、三角悦一、松村雪子、松村正俊、大久保幸藏、長谷川まゆみ、大矢美枝子、小野芳明、小林万佐也、竹中石根

事務局：小楠寿和、高橋宗孝、大山寛人、大塚隆人

コンサルタント業者：（生活構造研究所）塚田、柏木、近藤

4 議題

- 1 地域福祉活動計画策定に伴う各種調査の結果報告
- 2 地域福祉活動計画の骨子案について

—配布資料—

- ・平成 28 年度第 4 回地域福祉活動計画策定委員会次第
- ・平成 28 年度第 3 回地域福祉活動計画策定委員会会議録
- ・資料 1 地域福祉活動計画策定に伴う懇談会の実施結果の概要
- ・資料 2 狛江市社会福祉協議会第 3 次地域福祉活動計画策定に向けて
- ・資料 3 第 3 次地域福祉活動計画の方向(案)
- ・参考資料 1 狛江市地域福祉計画等改定に係る住民懇談会の結果の概要
- ・参考資料 2 狛江市地域福祉計画等改定 狛江市の福祉を取り巻く現状
- ・参考資料 3 第 3 次地域福祉活動計画 重点施策(案)に関する取組事例

## 5 会議の結果

(委員長)

事務局より、調査の報告をお願いします。

(事務局)

<配布資料の確認>

<資料1、参考資料1、2について説明>

(委員長)

各種調査結果の報告がありましたが、ご意見はいかがでしょうか。

(委員)

住民懇談会の参加者が少ないのですが、その中での意見というのはどうなのでしょう。圏域別に分けてまとめてありますが、圏域では分けられない意見もあると思います。元和泉3丁目380世帯で回収率70%になった「老人、子ども、弱者について」のアンケートがあります。こういうデータも社会福祉協議会と一緒にやっているのに、なぜ一緒に含めて連携してやってもらえないのかと思います。こんな少ない数のデータから言われてもよく分からないです。市の調査はどれくらい集まったのか分からないですが、この数からこれだけのことが言えるのでしょうか。元和泉3丁目のデータも活用していただきたいと思います。

(事務局)

町会データにつきましては、そこカネットワークの職員から報告を受けています。町会のデータですので非常に重要なデータとして、社会福祉協議会の計画の策定の際には参考にさせていただきます。データを計画の中で出すのは本来の趣旨とずれてしまう部分もありますので、参考として内部で共有させていただいております。

市の方の調査は現在集計中として、市の委員会もこれから行われますので、現時点ではまだこちらで調査結果を報告できません。ご了承ください。

(委員)

調査の結果をご報告いただきましたが、これから何を読み取ったのかがよくわかりません。何が策定のために使える情報であったのかを教えていただきたいです。

(事務局)

A3の紙に今回の調査のポイントを記載していますので、後ほどご説明させていただきます。

(委員)

この計画の重点施策で取り組むのか、地域福祉計画で取り組むのか分からないですが、重複する部分として空き家に関する問題があります。なぜ空き家になるのか、今どれくらいの空き家があるのか、現状を調べることも必要なのではないかと思います。社会福祉協議会でマンションを使ってくださいと言っていた際も相続の問題で使えないという

話が出たこともありましたが。空き家が発生する過程を調べることも活用に向けた1つの対策となるのではないのでしょうか。

(副委員長)

空き家等対策計画および条例の作成について、各分野が動き出しています。空き家は市内に約200軒あります。普通の空き家は180軒ほど、危険な空き家は40軒ほどあるようです。これを市としてどうやっていくかを考える委員会が4月から始まります。平成30年度末に条例を立ち上げようとなっています。

(委員)

今動いているのでチャンスだと思っています。なぜ空き家になってしまうのかを調べていただきたいと思います。空き家になってからでは遅くなる前になぜなるのかが分かると対策もできるのではないのでしょうか。せつかく空き家に関する記載がされているので、なにか対応していただけたらと思います。

(委員)

住民懇談会に参加させていただいたのですが、本当に何も所属していない住民の参加がほとんどない。民生委員や町会の役や福祉関係の人がほとんどで、たしかに住民には違いないですが、何かやっている人は似たような意見が出てしまうような気がして、課題は住民全体のことだと思いますので、普段関係のない人にもっと意見を出してもらった方が良いのではないかと思います。

(委員)

空き家もそうですがやっぱり町会連合とか町会に聞くことが、一番近所のことがわかると思います。一番困っているのが町会なので町会別で見ていかないといけない。地域全体で見守っていくことが大切だと思います。

(委員)

懇談会にこれだけの人しか集まってもらえないという問題、これがいろんな活動すべてにつながっているのではないのでしょうか。こちらの呼びかけに対して応えてくれる人間がこれだけしかいない。計画を立てることは大事ですが、参加してもらおうという基本的なことをもっとやらないと。この計画をもとにやると、一人暮らしの人など本当に支援が必要な人の声が反映されないと思います。もっと市民の声を代表して活動する社会福祉協議会という視点も持った方が良いのではないのでしょうか。

(委員長)

あとは、市民意識調査がどれだけ集まったのか。50%くらいの回収率だと思いますが、そのデータからいろいろと出てくれば、あとはこの住民懇談会のデータと合わせて活用できると思います。

(生活構造研究所)

補足ですが、アンケート調査の場合と懇談会のようなヒアリング調査の場合ですと、調査の目的が少し異なります。アンケート調査の場合、定量的な調査となりまして、数多く

回答を集めまして集計を行います。その場合、必ずしも大量の数を集めなければならないというわけではなく、分析に耐えられる調査のサンプル数が集まれば、結果の方向性としてあまり変わらなくなります。

住民懇談会の話ですが、こちらはいつも決まった方が出てくるというご意見もありましたが、やはりどうしても問題意識をお持ちの方が出てくるということだと思います。何も意見が出ないという状況になるよりも、我々としてはまずは問題意識をお持ちの方に出ただいて、まずはそこを課題として捉えるということを優先してやっていきたいと考えています。もちろん数多くの方に参加していただいて数多くの意見を出していただくことは重要ですが、時間や費用の面などいろいろな問題を考慮しますと、やはり問題意識を持って参加してくださる方を大切にしながら1つの方向性を出していくことが計画を策定する中では必要となるのではないかと考えています。

(委員)

それは少し違うのではないのでしょうか。問題意識を持っている方が来てくれてはいますが、1回目から2回目にかけても全く進歩が無いし、問題意識を持っていたら次に一歩進むと思います。ほんとただのデータにしかなっていないのではないのでしょうか。

例えば、全部の町会では無理ですが、賃貸したいと思っているところが貸してあげればタダで借りることができます。お金を全くかけずに、町内の子どもや高齢者が何を望んでいるのか、調査で知ることもできます。形ばかり作っても、次から動かないと何もつながらない。

(生活構造研究所)

調査の結果を地域別の課題と捉えていないというところがありましたが、この調査の結果と地区内の調査の結果が違うということがありましたら、ぜひ教えていただきたいです。ただ、地区単位の調査と全体を比較するのは難しい部分もあります。

(委員)

調査は統計的にやるものですが、それをやった結果なにがわかったのかということをはっきり示していただきたい。先ほどのデータもそうですが、ただの数値として見るか、地域別に差があると見るかといった見方だけでなく、その場所がどういうところなのか、歴史的にどうなのかといった背景も施策を行う上では関係してきます。一番大事なものは、統計的にはこう出てきたが、その結果社協がどう読んだのかというところです。さっきの結果を見て、地域別に施策をやっていくのが良いかと思いました。狛江市は小さい市ではありますが、全体で1個の施策で進めていけるほど単一的なまちだとは思いません。そういう意味で、調査結果を示して、その結果を次につなげていくために読み解いて、さらに市内で活動されている方やいろいろな意見を活かした上で、施策を考えていった方が良いと思います。

(委員)

資料1の中で、施設サービスの充実という意見がありますが、先ほど空き家の話もありましたが、こちらにも空き家の話が出ています。空き家を地域のコミュニティにすると書いてあります。私は人数は気にしていませんが、この資料の中にはたくさん良い意見が出ています。他にも学生が狛江で困っていることが書いてありますが、若い人達はこういう

ことを感じているんだと思いました。ですので、このように意見が出ているものをどう活用していくのかというところが、今回の大事なところ。他の町内での調査の話もありましたが、その町内の結果とも共通しているところもあると思います。それをどう活かしていくのが、この会を先に進めていくためには必要だと思います。先のことを考える会ですので、つなげられるものを皆で選んでいくというのが良いのではないのでしょうか。

(委員)

この資料に書かれていることは、あまりにも課題と対策が近い関係で書かれすぎている気がします。空き家の問題はあくまで空き家の問題で、空き家をなくすということがまず問題で、それを子どもの遊び場とくっつけて考えるというのは次の話。空き家があろうとなかろうと子どもたちの遊び場の問題は存在しています。空き家がなくても解決しないといけないこと。人材が不足しているとも書かれていますが、人材が不足しているのは何故かということをお話しないといけない。もう少し裏にある原因を考えて、アンケートをやってみて、それらの対策を考えるということをやらなければダメだと思う。

(委員長)

今回、市が中心となって懇談会やったり、社協では専門職や高校生大学生の懇談会をやってきましたが、私はそれを分けない方がいいと思います。私が他でやっている地域では、PTAと一緒に中学生が親子参加しています。いつも来る顔ぶれにプラスされるので人数がすごく多くなる。今後も懇談会をやっていくと思いますが、少し工夫しないと人数が集まらない。しかも中学生から結構良い意見が出て、中学生の意見に大人がゆり動かされるという効果も出てきますので、今後は少し工夫が必要かなと思いました。

空き家対策は2つあります。空き家を増やさないというのが1つと、出来てしまった空き家の有効活用をどうするか。有効活用の方法は住民のたまり場をそこに持っていくということだけではなくて、例えば神奈川県横須賀市の都市計画課でやっていますが、持ち主にリフォーム代を上限300万まで支払ってシェア住宅にして、大学生を2人入れる。大学生は月1万円で借りられますが、決まりがあって地域の高齢者の見守りをして、毎月一回市にレポートを出すことになっています。こういうやり方も対策としてはありだと思います。

(委員)

社協がやる話と市がやる話、ここのところをどう切り分けて考えていくかというのがあります。

(委員長)

市が中心になってやっていって、ここの部分の具体化は社協がやるというやり方もあります。

(事務局)

<資料2、3、参考資料3について説明>

(委員長)

説明について、何かご意見はありますか。

(委員)

今、あいとびあカレッジについてご説明がありましたが、私は平成7年に狛江に来て狛江のことを知るのも含めてあいとびあカレッジに申し込みました。グループ活動で何かをテーマにやっというのがあり、私の場合は子育て支援マップの作成をしてその中でいろいろと地域の方とお話もできました。やっぱり転入してきて、勉強も含めて活動していくと、何か目標を持つことが出来てそこから地域の広がりにつながると思います。私はそれから手話の勉強も始めて10年程になりますが、いろんな意味で地域の広がりにつながったので、あいとびあカレッジが途中でふつんと切れてしまうのではなく、活動が盛んだった1期から3期生の頃のようにできたらと思う。なにか動きがあればまた変わってくるのではないかと思います。

(委員)

私もここでヘルパー2級を取った時に教材費だけで補助が出たので、かなり予算もあつたのだと思いました。

この計画案は、全部取り組むとしたらとてもすごいことですが、本当にやるのであればそれぞれの分野の方が頑張らないと出来ないと思います。昔は50代60代でボランティアやろうって気持ちの方がたくさんいましたが、今はあまりいらっしゃらない。65歳でもお仕事されている方が多いから、地域に帰ってこない。こまえくぼでも今度50代60代の講習をやりますが、人集めが大変。今、方向性としては65～75歳は準備段階で、元気な高齢者は助けを求める高齢者をみようというようになっています。人集めは本当に大変で、もし良い人がいたら町会で絶対離さない。そういうふうにやっというかないと本当に難しいです。今の問題をどうしたらいいかというのを1つずつ対処していかないと、また何も進まずに終わってしまうと思います。

狛江市のあいとびあレインボープランは本当に素晴らしくて先端をいっている計画と先生が当時おっしゃっていましたが、何年か後に先生にお会いした時に何にも進んでいなくてびっくりされていました。最初のあいとびあカレッジから30年間やっていますが、またこれからもやっということは良いと思います。施策の案についても賛成ですが、これをどこが推し進めてやっというかをきちんと考えないとまた何も進まないと思います。

(委員)

書いてある計画はヒト・モノ・カネの裏づけのないものになっている。これをやるにはどれくらい人が必要で、財源はいくら必要となる。こういうところまで計画を作ってください。今は人集めが大変で、お金を払っても来てくれない時代です。みなボランティアって言いますが、ボランティアをやる人って生活に問題のない人達ですよ。無償でやるボランティアでしたらそれは働かなくても食べていける人で時間的に余裕のある人で、言うのは簡単ですが時代が変わってそれが難しくなっていると思います。計画は頑張ってみなができる計画を示さなければ、みながその通りにやることはないと思います。

(委員)

お金はかけなくても出来ると思います。施策体系(案)の2番の支えあいの地域をつくろうというのが出来れば、大きなボランティアをやる必要はなくて、隣近所で見守ったりして助けてあげることが出来ます。

(委員長)

今回は市と連動した計画だとすると、地域福祉コーディネーターの配置は市が人件費を補助してくれるのか、という話にもなります。事務局とも話したのですが、まだ、地域福祉コーディネーターという名称で良いのかというところがあります。東京都の地域福祉協議会は地域福祉コーディネーターと言っていますが、豊島区や練馬区ではコミュニティソーシャルワーカーと言っています。地域福祉コーディネーターというのは専門職を指すのか、住民の活動リーダー的な人を指すのか、そのあたりが分かりにくいところがあります。さいたま市の社協だと、地区社協の事務局を担っている人を地域福祉コーディネーターと言っています。それぞれによって使い方が違ってしまっています。本当に専門職であればコミュニティソーシャルワーカーにした方がわかりやすいと思います。

(委員)

地域福祉コーディネーターをやるために必要な資格や能力はありますか。

(委員長)

基本的には社会福祉士です。

(委員)

名称がどうあるべきかというのは、そのまちでどこまで仕事を任せるかによって変える必要があるということですね。

(委員長)

私の住んでいる相模原市は、行政の地域福祉計画で社会福祉協議会の地区社協に地域福祉コーディネーターを配置するとしています。人件費は行政がもっています。

(委員)

必ず配置しなければいけないという方向ならば仕方ないが、それならお金はしっかり出してもらわないといけない。

狛江市と似たような市の事例はありませんか。

(副委員長)

同じような市の事例はあげられないと思います。狛江市はベッドタウンではないが、地元意識も強いし、狛江市はあまり他と比べない方が良いのかもしれません。逆に言うと、狛江市では何が出来るかをみなで考える必要があります。

(委員)

みなが郷土愛をもてるように、地道に長い期間かけてやっていくことが大切だと思います。大学の4年間だけいる方に郷土愛をもてといっても難しいので、なにか別のやり方も必要かもしれません。人を動かす動機はそれぞれ異なるので、そこを施策では考えてもらいたいと思います。

(副委員長)

先ほどの懇談会の結果を拝見して、大学生が狛江は元気なおじいちゃんおばあちゃんがたくさんいると言っています。若い人はそう思っている。他の方の意見を見ても、元気な高齢者にボランティア活動をしてもらいたい、元気なシニアを組織化してほしい等があります。我々の65歳以上の世代が元気な姿で福祉の活動をやっているということを若い世代も見ているということだと思います。例えば元気な高齢者がまちのゴミ拾いをやっていたら、それを見た若い人達がどう思うか。きれいなまちになっていると思ってもらえればやりがいがあるという方向に持っていけるのではないかと思います。そうすれば、担い手の不足というのも補えるのではないかと。なにか、元気な高齢者がボランティアを出した時の特典のようなものがあったら良いと思います。

(委員)

地域の清掃というとお金が発生するかもしれませんが、地域で何かやっている方がみなさんどうですかというように呼びかけみたいな講座であれば、お金を払わなくても良いと思います。やり方はいろいろとあると思います。

(委員)

目先のことのような講座では、働いている方はボランティアでは来てくれないと思います。もっと題材を変えて、「第2の人生の働き方」とか「地域でこれから生きていくために」とか、そういう内容であればまだボランティアだとしても来てくれるかもしれない。仕事をやめて第2の人生を楽しもうという方にはボランティアはなかなか難しいかもしれないと思います。

(委員)

朝から60歳過ぎくらいの方が図書館に一人でいるところを見かけます。本を読みに来ているのかかもしれませんが、そういう方を取り込んで、地域で出来ることを一緒に出来ないかなといつも考えています。

(委員)

やりたいことはみな個人で違うということは分かっていないといけないと思います。実は今朝1時間程ボランティアをしてきました。家の裏にある遊歩道が汚れていて、当番がまわってきましたのでまわりの方にもお声をかけてみたところ、私も思っていましたと言ってくださって何人もの人が参加してくださるようになって、もう1年くらい活動しております。年齢をみると60歳というのはまだ若い方かもしれません。来てくださる方は仕事をやめて、少しいろいろなことをやって、落ち着いたというような方が多いかもしれません。お金は事前にもらっていませんが、葉っぱを入れる袋など後で申請すれば費用はいただけるので、何も用意する必要はありません。ただ月に1度集まっていたらそれで良いのです。その中で、清掃をして汗をかいて良かったと思っていただけることが大切だと思っています。清掃をしている時に通り過ぎて関心を持ってくださる方もいらっしゃいます。ところが、そういう方はみなまだ仕事があって参加できません。私はとりあえず関心を持っていただいて、いつかは参加出来るかもしれないと思ってもらえれば、それで良いと思っています。



(委員)

60歳は地域のこれからの人材なので地域から離さないように、というように思います。

(委員長)

いろいろな話があがっていますが、今までの話で案をとるというのではなくて、大体このような方向で検討していくということによろしいでしょうか。

(委員)

異論ありません。

(委員)

1つ気になることがあります。資料3の中で日常生活圏域が市と社協で異なるとありますが、あくまで市の計画とリンクしながらやる必要があると思います。その中で複数の圏域を組み合わせる施策を考えるのは良いと思いますが、最初から圏域が異なるのはよろしくないと思います。

(事務局)

新たな計画では基本的には日常生活圏域のエリアでやっというと考えています。ただサロン活動等は個別にやっている部分もありますので、それはそのまま対応していこうとは思っています。

(委員)

アンケートの結果に載っていないご意見で示した方が良いものもあると思います。

(委員)

町会の調査から、高齢者も子どもも遠くから見守って欲しいという意見が一番多かったです。これを町内で緩やかに緩やかにやっというかなと思っています。計画に加えるとかそういう考えはないです。

(事務局)

当初は次回委員会は5月の予定でしたが、市の調査のまとめや計画案の修正等から、次回は7月の開催でよろしいでしょうか。それでは7月11日(火)14:00~の予定で宜しくお願いいたします。

本日はありがとうございました。